

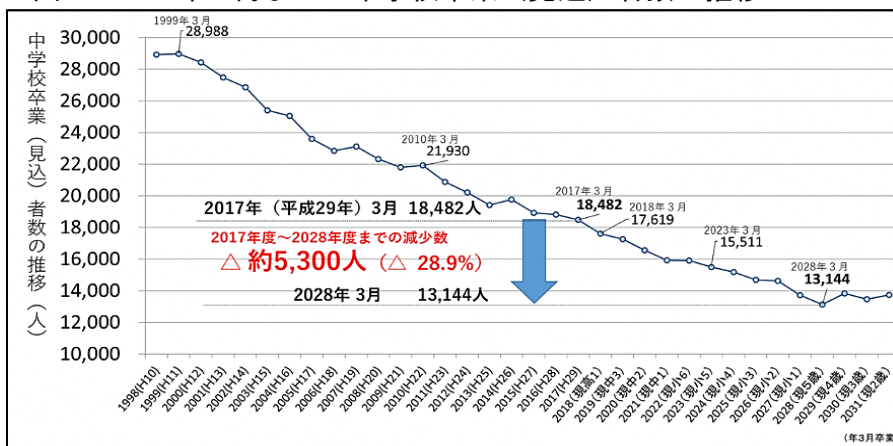
～ふくしまの未来を切り拓く人づくりのための魅力ある県立高等学校を目指して～ 県立高等学校改革前期実施計画（2019～2023年度）の概要

2019年2月 福島県教育委員会

計画策定の背景

1 少子化の進行

図1 2028年3月までの中学校卒業（見込）者数の推移



・2017年度から2028年度の間、**県立高校全体で104学級程度の削減が必要。**

・既に、2018年度に15学級削減しており、今後、**さらに89学級程度の削減が必要。**

・これは、1学年4学級規模の学校、**約22校の減に相当。**

<参考>

本県の市町村立小・中学校数の状況

(H20) → (H30)

小学校 512 → 436 ▲76

中学校 238 → 218 ▲20

出典・2017年(平成29年)までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計(学校基本調査報告書)」から作成。

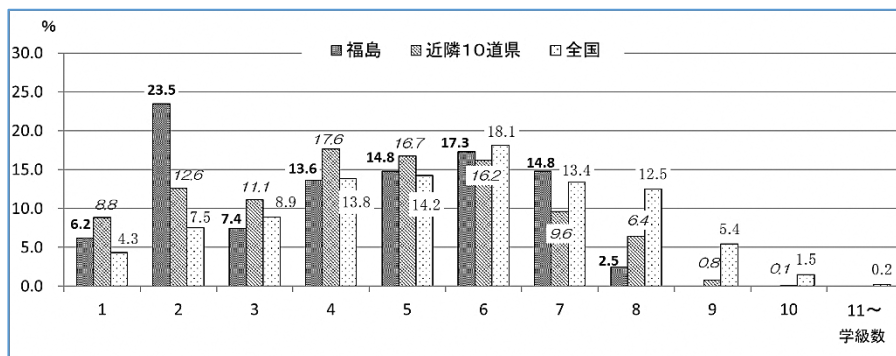
・2018年(平成30年)3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。

・2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」(2017年4月1日現在)の各年齢別のデータをもとに作成。

2 県立高等学校の小規模校化

図2 1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較

(福島県・近隣10道県・全国)



・東日本大震災の影響もあり、これまでは基本的に学校数を維持したままで、学級数を減。

・結果として、**1学年当たり3学級以下の小規模校は全日制課程全体の37.1%**であり、**全国平均20.7%**に比べて高い割合。

・特に、**1学年当たり2学級規模の学校は23.5%**であり、**全国平均7.5%**に比べて非常に高い割合。(図2)

出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。

分校を含む2018年度(平成30年度)都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

3 本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

全国的な動き・・・学習指導要領の改訂や高大接続改革など

本県における動き・・・東日本大震災・原子力災害からの復興・再生など

県立高等学校改革計画のスケジュール

県立高等学校改革基本計画 (2019年度～2028年度) 2018年(平成30年)5月18日策定

県立高等学校改革前期実施計画

2019年度～2023年度(今回策定)

県立高等学校改革後期実施計画

2024年度～2028年度

県立高等学校改革前期実施計画のグランドデザイン

2019年2月
福島県教育委員会

前期実施計画最終年度(2023年度)の各校の位置づけなどを示す。
四角囲み内の2校は、統合予定の高校である。

本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくり・生徒の資質や能力を伸長させる魅力ある高等学校づくり

〇様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する教育活動の推進
〇多様な学習内容の提供及び教育の質の向上

社会的変化に的確に対応できる生き抜く力の育成

進学指導 拠点校 (4校)

福島・安積・会津・磐城

県内の学習指導、進学指導を牽引するリーダー校として、進学指導重点校との連携による教育力向上の推進。難関大学及び医学部志望者の進路実現。

国内外で各分野のトップリーダーとして活躍する、未来を牽引できる人材。

進学指導 重点校 (16校)

授業の質の向上及び進学指導の充実と、進学指導拠点校との連携による、生徒の進路希望実現。

各分野のリーダーとして活躍する、社会の発展に貢献できる人材。

キャリア指導 推進校 (21校)

生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育活動の充実による、就職から大学進学までの進路希望実現。

地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人材。

アクティブラーニング及び探究的な学びの先進校としての取組や創造的復興教育の実践。

普及・発展

アクティブラーニング及び探究的な学びの先進校として、成果を他校と共有し、具体的な手法や評価法などについて普及・発展させる。

職業教育 推進校 (21校)	県北	県中	県南	会津	いわき	相双
	福島商業 福島明成 福島工業 二本工業・安達東 統合校	郡山商業 郡山北工業 清陵情報 岩瀬農業	白河工業・靖工業 統合校 修明	若松商業 会津工業 喜多方桐桜 耶麻工業・会津林 統合校	平工業 平商業 小名・いわき 統合校 磐城農業 勿来工業	相馬農業 小高産業技術

ミッション
育てたい生徒像

大学や地域企業等との連携による実践的な職業教育の充実と、企業への就職や職業系学部などへの大学進学を実現する、地域の産業振興や福島の復興を支える人づくりの推進。

小高産業技術
S P H指定校としての取組や
Cross Training Program による授業の実践。
先進的な教育実践や他機関との連携などにより得られた知見及び成果を他の職業高校と共有し、普及・発展させる。

地域協働 推進校 (6校)

川俣・湖南・猪苗代・西会津・川口・只見

ミッション
育てたい生徒像

地域との協働による教育活動の充実と、地域社会を支える人づくりの推進。

地域創生の核となって活躍する、社会に貢献できる人材。

定時制・通信制 高校 (7校)

福島工業(定)・保原(定)・福島中央統合校
郡山萌世(定)・白河第二・会津第二・いわき翠の社

定時制

通信制
郡山萌世
(通)

ミッション
育てたい生徒像

生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育活動とキャリア教育による、生徒の進路希望実現。
意欲を持って学習や学校生活に取り組み、主体性や社会性を身に付けて、社会に貢献できる人材。

相双地区休校等 (6校)

双葉・浪江・浪江津島校
富岡・双葉翔陽
相馬農業飯館校

今後の地域の復興の進展、住民の帰還状況、小中学校の再開状況を考慮しながら、今後の在り方を検討。

県立高等学校改革前期実施計画最終年度（2023年度）における各地区の高等学校の配置

※ 学校の位置づけごとに学校番号順に掲載。
校名の後の丸数字は、1学年の学級数。
〔 〕は統合校の統合予定年度。

